

### 海域の概要

本湾は、北海道南西部に存在する巨大な湾で、内浦湾とも呼ばれています。周囲に活火山が多いため、このような名称が付けられました。湾内ではホタテなどの養殖が盛んに行われています。



### Specification

#### 諸元

湾口幅：30.2 km

面積：2,485 km<sup>2</sup>

湾内最大水深：10.7 m

湾口最大水深：9.3 m

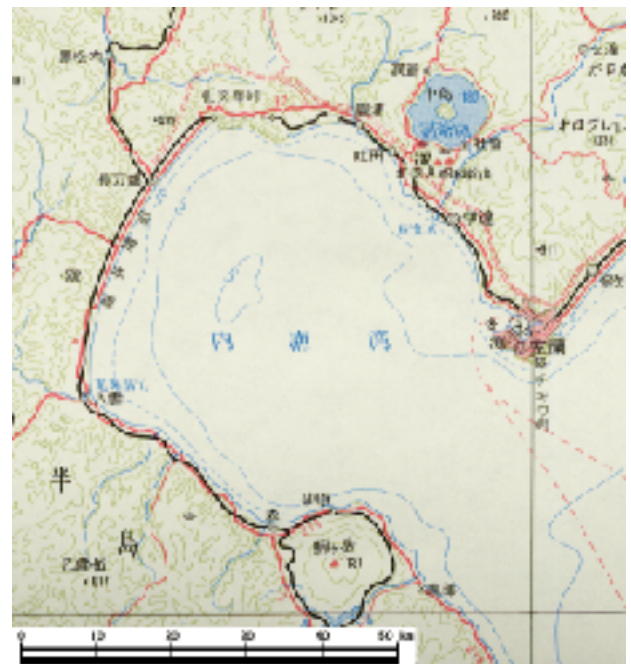
閉鎖度指標：1.90

備考：環境基準類型指定水域(一部)

### Location

#### 範囲または位置

北海道室蘭市地球岬と茅部郡砂原町砂埼を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。



## 環境

噴火湾は、円形の大きな湾で、沿岸には火山が多く、長流川・貫気別川・長万部川などの大小河川が湾に注いでいます。湾岸には、室蘭市など8市町があります。

湾内の底質は、湾口部を除き大部分がシルト質となっており、砂礫の分布は湾口北部の室蘭沖に限られています。また、噴火湾の底層水は、夏季から秋季に貧酸素状態となって、噴火湾沿岸の環境や水産業に大きな影響を与えています。

## 自然

噴火湾は内浦湾とも呼ばれており、最近、噴火した有珠山をはじめとして昭和山、羊蹄山、駒ヶ岳に囲まれています。有珠山の北東方高原には、洞爺湖が位置しています。

天然の良港として知られている室蘭の地球岬付近はトッカリシヨ自然景観保護地区・地球岬鳥獣保護区に指定されています。

藻場は、湾西岸の砂浜域を除く、岩礁域に広く分布しています。また、魚類相をみると、メジナ、ハナオコゼ、ハコフグ、マイワシ、ウミタナゴ等の暖海性種が見られる一方、噴火湾を南限とするオクカジカをはじめ、ニシン、サケ、スケトウダラ、ケムシカジカ等の亜寒帯性種もみられます。

また、虻田付近では波が穏やかでエサが豊富なところから、コクガンの越冬地となっています。



地球岬からの展望

## 文化歴史

内浦湾と呼ばれていたこの海を噴火湾と名付けたのは、18世紀後期に内浦湾を訪れたイギリスの探索船「プロビデンス号」のプロトン船長です。故国に帰ってからその著書「北太平洋探検の航海」で、北海道に「エンデルモ(エトモ)・ハーバー」という天然の良港ありと、室蘭港の良さを広めるとともに、有珠山や駒ヶ岳などの火山群を見て、この湾を「ボルケイノ・ベイ」(噴火湾)と名付け、世界に紹介しました。

## 産業

噴火湾沿岸の市町村は、対馬海流(暖流)の影響を強く受けるため、夏は涼しく冬は温暖であるなど快適な気象条件に恵まれる中、農業と水産業が基幹産業となっています。

水産業では、ウバガイ、ホタテの生産が大きい海域で、ウバガイは北海道全体の約17%を占める漁獲量がある他、スケトウダラ・カレイ類の漁獲が主となっています。また、ウニ・アワビの種苗放流など育てる漁業にも力を入れています。

室蘭では基礎資源型工業(石油精製、紙・パルプ、鉄鋼など)を中心に、輸送用機械等の組立型工業も集積する工業地帯を形成しています。

また、春から秋にかけ、多くのイルカが回遊する噴火湾では、さらにミンククジラ、シャチ、オットセイといった海洋ほ乳動物との出会いの確立が高い海域であり、クジラ、イルカなどのホエールウォッチングが、盛んに行われています。



エゾバフンウニ